

リレー回想



人権教育推進協議会 委員になつて

今井 秋男 (古町)

この協議委員は、保育園・小・中・高・社会教育の関係者が立科町教育委員会より委嘱されて活動をしています。現在、私は人権政策確立要求実行委員会より選ばれて委員の活動をしています。

初めのころは「個別的な人権課題」と言っても何をやってたなら世の中から差別や

偏見がなくなるのかと思案し、答えが導けず不安になることもありました。幸い、町の教育委員会の皆様のご指導により、各研修会に参加する機会をいただき、知識を高めていくことができました。

そんな中、平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、多くの方が犠牲となりました。原子力発電所の事故で、さまざまな偏見など風評被害もあったと思います。しかし「絆」という言葉が日本中を駆け巡り、皆が心を一つにして再建しようという意識が芽生えたと思います。

今の世の中から少しでも偏見や差別をなくすために、どんな時でも相手の立場に立つて思いやる心が大切なことだと感

じています。

今年是全国人権・同和教育研究大会が

長野県で行われ

ます。

そこにも参加して、私

自身もさらに研修を重

ね、地域の皆様にも少

しでも貢献することが

できると思

っています。



編集後記

つい先日まで暑い日が続いてきたのが嘘かのように、すっかり肌寒さを感じる季節になりました。

そんな暑い夏に祖母が毎年楽しみにしているのが甲子園です。甲子園は1915年の夏に始まった、高校野球全国大会。今年はちょうど100年の節目の大会でした。毎年色々なドラマがあり、一生懸命何かに打ち込む姿はこんなにも人々に感動を与えられるのだと、改めて感じます。

今年で始まって100年でも、今大会は第97回大会。途中戦争で中断されていたためです。今年で戦後70年。戦争を経験した世代が少なくなってきた今日ですが、この節目に、改めて日本が歩んできた歴史を考える良い機会ではないでしょうか。

今、この四季美しい日本があるのは、国を守るため、家族を守るために命をかけた人たちがいたからです。昔、祖父から聞いた戦争の悲惨さはほんの一部にすぎません。

今を生きている私たちが次の世代に何を伝えていくのか。どんな「ふるさと」を残していけるのか。ここ立科町も例外ではなく、いつまでもこの景色が残ることを願います。

Y・K

クラブ訪問

手話ダンスの会エール

小淵由美子 (山部)

【手話ダンス】とは、歌詞のイメージを手話で表現し、リズムに合わせてステップをつけて踊るダンスです。楽しみながら手話に触れ、目で見て心で聞いて聴覚障がい者の理解も深めることが出来ます。

10年で、30曲ほど踊れるようになりました。「花は咲く」「涙をうしろ」の

風になって」「忘れな草をあなたに」この広い野原いっぱい」などです。年に2・3曲新しい曲を覚え、今は「白い色は恋人の色」を覚えていきます。年齢層が広く、和気藹々に「ボケ防止に！」なんて言っていて踊っています。

楽しみ交流する中で、共に成長しボランティア活動もしています。

年間を通して会

員募集、興味ある方はご一緒に活動

しましょう。

中央公民館にて

